

IBM DB2 Cube Views



**Bridge for Integration Server
ユーザーズ・ガイド**

バージョン 8

IBM DB2 Cube Views



**Bridge for Integration Server
ユーザーズ・ガイド**

バージョン 8

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、11 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、新規の版で特に指定がない限り、DB2 Cube Views Bridge for Integration Server バージョン 8.1 (プログラム番号 5724-E15) 以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： SC18-7300-00
IBM DB2 Cube Views
Bridge for Integration Server User's Guide
Version 8

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2003.6

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2003. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2003

目次

概要	1	特記事項	11
前提条件	1	商標	13
Bridge for Integration Server とは	3	IBM への連絡	15
メタデータのマッピングとインポート	5	製品情報	15
メタデータのエクスポート	9		

概要

Bridge for Integratio Server は、IBM® DB2 Universal Database™ (DB2® UDB) カタログと、IBM DB2 OLAP Server™ または Hyperion® Essbase® Integration Services™ の DB2 OLAP Integration Server アドオン機能間でのメタデータ・オブジェクトのインポートやエクスポートに役立ちます。インポートまたはエクスポートのプロセスを完了するには、DB2 Cube Views の OLAP センター を使用します。

本書では、DB2 OLAP Integration Server および Hyperion Integration Services を、*Integration Server* と表記します。

Bridge for Integration Server を使用するには、次の追加資料が必要です。

- DB2 Cube Views バージョン 8.1 セットアップおよびユーザズ・ガイド
- DB2 Universal Database バージョン 8.1.2 のカタログの関連情報
- IBM DB2 OLAP Integration Server バージョン 8.1 または Hyperion Integration Services 6.5 の関連情報

Integration Server と DB2 UDB カタログ間でメタデータ・オブジェクトを交換するには、Integration Server モデルおよびメタアウトラインの作成方法および DB2 UDB カタログ表について理解している必要があります。また、Integration Server と DB2 UDB 間でメタデータ XML ファイルをインポートまたはエクスポートするには、DB2 Cube Views の OLAP センター の使用方法も理解している必要があります。

前提条件

Bridge for Integration Server を使用するには、次のソフトウェアが必要です。

- Windows NT®、Windows® 2000、および Windows XP
- IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1.2 またはそれ以降
- DB2 OLAP Server バージョン 8.1 (DB2 OLAP Integration Server を含む) または Hyperion Essbase Integration Services 6.5

Bridge for Integration Server とは

DB2 Cube Views は、Integration Server モデルまたはメタアウトライン・オブジェクトをそれらに対応する DB2 Cube Views メタデータ・オブジェクトへマップする、ブリッジと呼ばれるユーティリティを提供します。ブリッジは、Integration Server メタデータ・オブジェクトと DB2 Cube Views メタデータ・オブジェクト間のマップされた関係を作成する XML ファイルを作成します。ブリッジ XML ファイルを使用すると、DB2 Cube Views を介してモデルまたはメタアウトライン・オブジェクトを DB2 UDB カタログにインポートできます。モデルまたはメタアウトラインの XML ファイルとしてのインポートおよびエクスポートについては、Integration Server の資料を参照してください。

ブリッジを使用して XML ファイルを作成した後、XML ファイルの DB2 UDB カタログへのインポートには DB2 Cube Views の OLAP センター を使用します。DB2 UDB カタログにメタデータ・オブジェクトを追加した後は、OLAP センター インターフェースを使用してメタデータ・オブジェクトを表示できます。OLAP センターの使用方法について詳しくは、「DB2 Cube Views セットアップおよびユーザーズ・ガイド」を参照してください。

また、DB2 UDB カタログから Integration Server へ DB2 Cube Views メタデータ・オブジェクトをエクスポートすることもできます。OLAP センター を使用して、後でブリッジに読み取られる XML ファイルをエクスポートできます。ブリッジは、DB2 UDB カタログからのメタデータ・オブジェクトをモデルまたはメタアウトラインのメタデータ・オブジェクトへマップします。

4 ページの図 1 では、Integration Server と DB2 UDB カタログ間でのメタデータのインポートまたはエクスポート方法を示します。

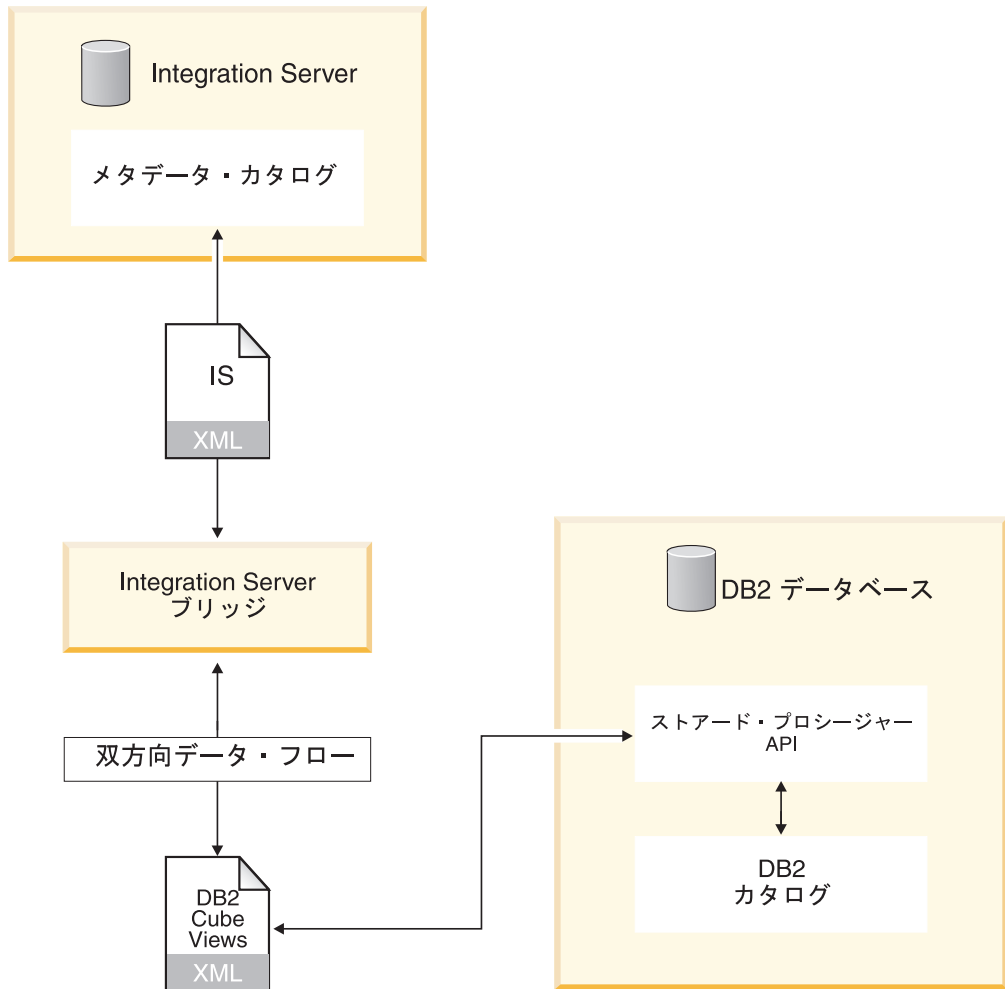


図1. ブリッジはメタデータのインポートやエクスポートにどのように役立つか

ブリッジによって作成されたこの XML ファイルを使用して、(DB2 UDB カタログからエクスポートされた) メタデータ・オブジェクトを Integration Server へインポートすることができます。XML ファイルの Integration Server へのインポートについては、Integration Server の資料を参照してください。

メタデータのマッピングとインポート

ブリッジを使用して、OLAP センター インポート・ウィザードが Integration Server から DB2 UDB カタログへのメタデータ・オブジェクトのインポートに使用する XML ファイルを作成することができます。ブリッジを使用する前に、モデルまたはメタアウトラインを XML ファイルへエクスポートする必要があります。その後、ブリッジが Integration Server メタデータ・オブジェクトを DB2 Cube Views メタデータ・オブジェクトへマップします。

次の表は、Integration Server メタデータ・オブジェクトが DB2 Cube Views メタデータ・オブジェクトへマップされる方法を示します。

表 1. Integration Server オブジェクトが DB2 Cube Views オブジェクトへマップされる方法

Integration Server オブジェクト	DB2 Cube Views オブジェクト
モデル	キューブ・モデル
ファクト	ファクト
ファクトの数値メンバー	計測
ディメンション	ディメンション
ディメンション・ビューのメンバー	属性
階層	階層
結合 (論理および物理)	結合
メタアウトライン	キューブ
非アカウント・ディメンション	キューブ・ディメンション
アカウント・ディメンション	キューブ・ファクト
メタアウトライン・ディメンション階層	キューブ階層

Integration Server から DB2 UDB へのメタデータのマッピングおよびインポートには、次の 3 ステップのプロセスがあります。

1. Integration Server でモデルまたはメタアウトラインを XML ファイルとしてエクスポートする。
2. Integration Server OLAP オブジェクトをそれらに対応する DB2 Cube Views メタデータ・オブジェクトへマップする。
ブリッジを使用して、DB2 Cube Views メタデータ・オブジェクトをマップする DB2 Cube Views XML ファイルを作成する。
3. DB2 Cube Views メタデータ・オブジェクトを DB2 UDB カタログへインポートする。

OLAP センター のインポート・ウィザードを使用して、XML ファイルを DB2 UDB カタログにインポートする。

制約事項:

メタアウトラインをマップする場合は、メタアウトラインのモデルもマップする必要があります。

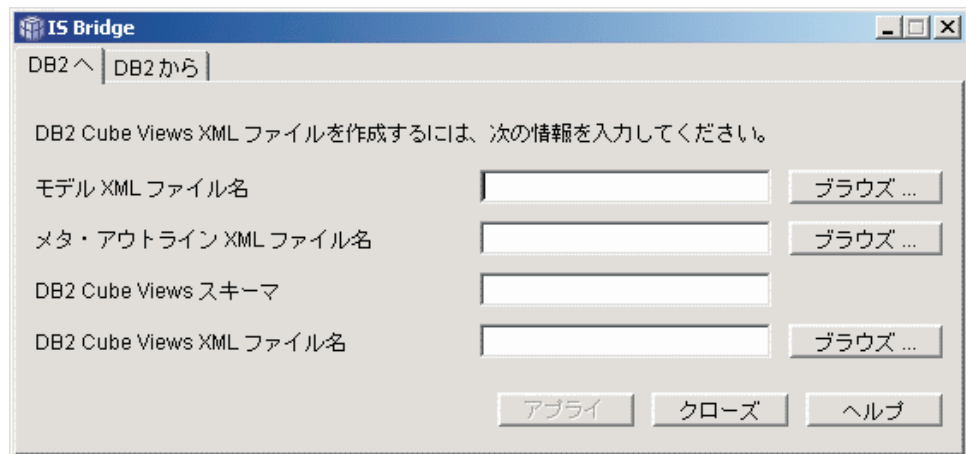
ブリッジは、以下の Integration Server メタデータ・オブジェクトを DB2 Cube Views メタデータ・オブジェクトにマップできません。

- PASSTHRU 式または PASSTHRU 公式を持つメンバー
- 結合に使用されない隠しメンバー
- アウトラインおよびハイブリッド分析より下のレベルにあるメタアウトラインのディメンション・メンバー
- 他の計測を参照しない計測で、集計タイプを指定しない、または集計に NONE を指定しているもの
- 結合に使用される計測
- 暗黙的計測
- 再帰的階層を定義するのに使用される結合
- ユーザー定義のディメンションおよびメンバー
- 属性ディメンション
- まったくメンバーがマップされていない階層およびメタアウトラインのディメンション

プロシージャー:

Integration Server メタデータ・オブジェクトを DB2 Cube Views メタデータ・オブジェクトにマップするには、以下のようにします。

1. SQLLIB\BIN ディレクトリーの isbridge.bat ファイルをダブルクリックか、またはコマンド・プロンプトから isbridge を入力してブリッジを開始する。
2. **To DB2** タブをクリックする。



3. 次のファイルおよび情報について入力またはブラウズする。
 - a. モデル XML ファイル名: モデル用に Integration Server によって生成される XML ファイル
 - b. オプション: メタアウトライン XML ファイル名: メタアウトライン用に Integration Server によって生成される XML ファイル
 - c. スキーマ名: ブリッジによって生成されるすべての DB2 Cube Views オブジェクトに使用されるスキーマ名
 - d. DB2 Cube Views XML ファイル名: ブリッジによって生成される XML ファイル

4. 「アプライ」をクリックする。

コマンド行からブリッジを開始し、モデルまたはメタアウトライン付きのモデルをインポートするには、次のコマンドを 1 行に入力します。

```
ISBridge -Model model XML file [-Metaoutline metaoutline XML file]  
-OutFile output XML file -OLAPSchema schema name  
[-Log Yes|No]
```

各ファイルの説明については、直前の節のステップ 3 を参照してください。Output XML file は、DB2 Cube Views の XML ファイルの名前です。

log コマンドに Yes を入力すると、ブリッジはログ・ファイルを作成します。デフォルトは No です。

これで DB2 Cube Views の OLAP センター を使用して、新規 XML ファイルを DB2 UDB カタログにインポートできます。XML ファイルのインポート方法については、「DB2 Cube Views セットアップおよびユーザズ・ガイド」を参照してください。

メタデータのエクスポート

ブリッジを使用して、DB2 Cube Views メタデータ・オブジェクトを Integration Server にエクスポートすることができます。ブリッジによって Integration Server にインポート可能な XML ファイルが作成されます。

制約事項:

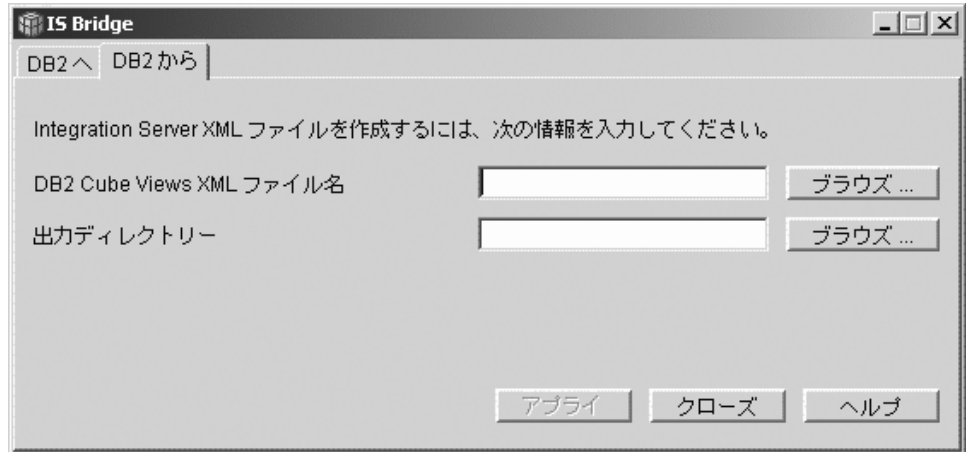
ブリッジは、以下の DB2 Cube Views メタデータ・オブジェクトを Integration Server メタデータ・オブジェクトにマップできません。

- キューブ・モデルに使用されない属性、計測、ディメンション、または階層
- 集計タイプが次のいずれでもない計測:
SUM、AVG、MAX、MIN、COUNT、NONE
- 複数の集計を含む計測
- 集計を含まない計測で、その式のため、メタアウトラインのアカウント・ディメンションで計測階層を構築できないもの。
- 非マップ式オブジェクトを参照する属性および計測
- ループを形成する結合
- 内部結合ではないタイプの結合、または演算子が = ではない結合、またはカーディナリティーが n:m ではない結合
- リレーショナル列にリンクしていない結合
- 均衡階層ではない階層、または配置が標準ではない階層
- ファクトとディメンションの結合がマップされていないディメンション
- 非マップ式階層を参照するキューブ階層
- 非マップ式ディメンションまたは非マップ式階層のいずれかを参照するキューブ・ディメンション
- 属性関係

プロシージャ:

DB2 Cube Views メタデータ・オブジェクトを Integration Server にエクスポートするには、次のようにします。

1. SQLLIB\BIN ディレクトリーの isbridge.bat ファイルをダブルクリックか、またはコマンド・プロンプトから isbridge を入力してブリッジを開始する。
2. 「DB2 から」 タブをクリックする。



3. 次のファイルおよび情報について入力またはブラウズする。
 - a. DB2 Cube Views XML ファイル: DB2 Cube Views によって生成される XML ファイル
 - b. 出力ディレクトリー: 出力モデルおよびメタアウトラインが保管されるロケーション
4. 「アプライ」をクリックする。

コマンド行で、DB2 Cube Views から Integration Server へメタデータをエクスポートするには、次のコマンドを 1 行に入力します。

```
ISBridge -DB2MetadataFile DB2 Cube Views XML file  
-outDirectory output directory [-Log Yes|No]
```

各ファイルの説明については、直前の節のステップ 3 を参照してください。

log コマンドに Yes を入力すると、ブリッジはログ・ファイルを作成します。デフォルトは No です。

これで新規 XML ファイルを Integration Server にインポートできます。モデルおよびメタアウトラインの XML ファイルのインポート方法については、Integration Server の資料を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
J46A/G4
555 Bailey Avenue
San Jose, CA 95141-1003
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

DB2 Universal Database
DB2 OLAP Server
IBM

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Lotus および 1-2-3 は、Lotus Development Corporation の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、Windows 2000、Windows XP および Microsoft Excel は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Hyperion Essbase Integration Services は、Hyperion Solutions Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

IBM への連絡

技術上の問題がある場合は、DB2 UDB お客様サポートに連絡する前に製品の資料を読み、提案されているアクションを実行してください。このガイドでは、DB2 UDB のお客様サポート部門がより良い対応が行えるように、お客様が収集可能な情報を記載しています。

DB2 UDB 製品の情報および製品の注文については、IBM 営業所の担当者または IBM 認可のソフトウェア販売業者にお問い合わせください。

製品情報

- 資料のご注文方法については、<http://www.ibm.com/jp/manuals> の「ご注文について」をご覧ください。(URL は、変更になる場合があります)

<http://www.ibm.com/software/data/db2/db2md/>

DB2 Cube Views についての情報へのリンクがあります。

<http://www.ibm.com/software/data/support/>

IBM DB2 情報管理ソフトウェア・プロダクトの技術サポートへのリンクがあります。

[http://www.elink.ibm.com/public/applications/](http://www.elink.ibm.com/public/applications/publications/cgibin/pbi.cgi)

[publications/cgibin/pbi.cgi](http://www.elink.ibm.com/public/applications/publications/cgibin/pbi.cgi) International Publications ordering Web サイトでは、本の注文方法に関する情報を提供しています。

<http://www.ibm.com/education/certify/>

IBM Web サイトの「Professional Certification Program」では、IBM の各種製品の認証テスト情報を提供しています。

注: 国によっては、IBM 認可の販売業者は、IBM サポート・センターではなく販売業者のサポート機関に連絡を取る必要がある場合があります。



プログラム番号: 5724-E15

Printed in Japan

SC88-9561-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12